

## 朝霞市立朝霞第一中学校時代の思い出

### 白球を追って

朝霞市長 富岡 勝則

私が朝霞第一中学校に入学したのは、昭和42年のことです。

その年の3月15日に市制が施行され、校名も朝霞町立朝霞中学校から朝霞市立朝霞第一中学校に変わったばかりでした。そのためか、当時はまだ、「一中」とは呼ばれずに、「朝中」と呼ばれることが多かったと思います。

中学校に入学した私は、クラブ活動(今は部活と呼ばれていますが)として野球部に入部しました。私の中学校生活は、まさに泥と汗にまみれ、白球を追いつけた3年間といえるものでした。

当時、市内の中学校は、一中と二中の2校体制でしたが、野球部の実力は一日の長があったせいか、常に一中が優位にたっていました。私は、個人的には遊撃手として、1・2番をまかされていました。成果については、当時のチームメートからは何と言われるかわかりませんが、自分としては胸を張れる内容であったと思っています。

最終的に目標としていた県大会への出場の夢は果たすことができませんでしたが、郡大会の決勝戦に出場したことは、私の中学校時代の思い出となっています。

今も一中の周囲は、閑静な住宅街に囲まれており、当時とそれ程の変わりはないかと思いますが、あえて一点挙げるとすれば、今はマンションが立ち並ぶ地域にカレー粉を扱う会社があったことから、風向きにより、カレーのにおいが校庭に立ち込めたことが記憶にあります。今でもカレーのにおいがすると、一中を思い出すことがあります。

また、「富士がほおえむ朝空に…」と校歌の冒頭に歌われているように、よく晴れた日には、朝中のベランダから富士山の姿を眺めることができ、清々しい気持ちで眺めたことも強い印象として残っています。

今思い返してみると、私の朝霞第一中学校の印象は、昔も今も変わらないような気がします。しかし、私が卒業した後も、さまざまな出来事があったわけですが、その時々教職員や保護者の皆様の方ならぬご尽力により、幾多の困難を乗り越えながら、安定した環境が維持され、多くの有為な人材を輩出することができたものと思います。

50年近くにわたり多くの中学生の生活を見守ってきた本校舎が、時の流れとともに今その使命を終えることは、誠に感慨深いものがございます。同時に、新しい朝霞第一中学校が、これまでに培われた本校の立派な歴史と伝統を受け継ぎ、また、卒業生をはじめ、地域の皆様など多くの方々のお支えにより、さらに充実・発展を遂げられますよう、心から願ってやみません。